



新庁舎の建替方針が決まりました

市では、平成27年9月から新庁舎建設の基本設計に着手しており、平成29年10月までに実施設計を完成させる予定です。現在取り組んでいる設計では、設計者を選定したプロポーザルでの提案内容をもとに検討をしています。

本号では、これまでに決まった建替えの基本的方針や、設計者決定後に行った各種事業の報告、今後の予定などをお知らせします。

今後も、「市民に親しまれ、府中らしさを受け継ぐまちづくりの拠点となる庁舎」の実現に向け、設計作業を進めていきます。

問合せは、政策課庁舎建設担当(335・4129)へ。

新庁舎の建替方針

平成27年2月に策定した府中市庁舎建設基本計画では、仮設庁舎を活用して新庁舎を建設することとしていましたが、設計者の提案内容をベースとして検討を進めた結果、新庁舎の建替手法については、仮設庁舎を使用しない方針に決定しました。

この建替方針に基づき、新庁舎では、1期工事として主たる庁舎機能を集約した「おもや」を建設し、関係部署を移転させた後に、既存庁舎を解体し、2期工事として庁舎機能を補完し市民活動を支える「はなれ」を建設します。

なお、新庁舎における効率的な部署配置を実現するため、一部の部署が他の施設へ一時的に仮移転する可能性があります。

1 敷地北側の整備

現在、新庁舎の建設に向けて、既存庁舎北側の敷地拡張に取り組んでいます。併せて、職員用駐輪場を解体するほか、埋蔵文化財発掘調査などを行います。



2 1期工事:「おもや」の建設

拡張した敷地に、1期工事として「おもや」を建設します。工事は、工事車両動線と来庁者動線を明確に分け、安全に配慮して行います。



3 移転・既存庁舎解体

「おもや」建設後、既存庁舎に入っている部署を「おもや」に移転します。

移転完了後、既存庁舎を解体します。なお、新庁舎における効率的な部署配置を実現するため、一部の部署が他の施設へ一時的に仮移転する可能性があります。



4 2期工事:「はなれ」の建設

既存庁舎の解体後、「はなれ」を建設します。「はなれ」には府中駅北第2庁舎や他の施設に配置している部署などを移転します。

「おもや」と「はなれ」は、ブリッジでつなぐ予定です。



〈配置図は現段階のイメージです。〉

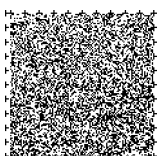
現在の取組状況

現在進めている基本設計では、新庁舎の構造や各フロアの配置を検討しています。

また、基本設計と並行して、新庁舎を建設する土地の地盤の強度などを確認するため、平成28年1・2月に既存庁舎の敷地内で地盤調査を行いました。この調査結果をもとに、建物を建てる際に必要な条件を整理していきます。



地盤調査の様子



平成28年度の予定

平成27年度に引き続き、地盤調査を行うほか、既存庁舎北側にある職員用駐輪場の解体を行うとともに、「おもや」の建設予定地の埋蔵文化財発掘調査を行い、1期工事に向けた準備を進めていきます。

また、基本設計完了後、市民の皆さんに説明する機会を設ける予定です。

◆平成28年度のスケジュール(予定)◆

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
工程	基本設計		実施設計(平成29年10月まで)										
	埋蔵文化財発掘調査												
	職員駐輪場解体												
	地盤調査												

市長・設計者の想い

環境配慮のあり方

大國魂神社の冷気を建物に取り込んでいくことはアイデアとして必要だと考えました。(上田氏)

このプロポーザルが始まったときに大國魂神社も訪れましたが、少しひんやりとした空気感がありました。この豊かな緑から発生する冷気というものを極力建物に取り込んでいくことはアイデアとしては必要だと考えました。そんな中でこの通り庭が非常にヒットしたところがあり、人の流れと併せて自然の風の流れも感じられる通り庭ではないかと思っています。ただ単に通過していくような場所になっておらず、少し折れているようなところがあるので、それが制御的に上手くいくというように考えています。建物の間を風が強く流れすぎないように工夫がけやき並木と併せて必要になってくると思います。

なるべく余計なエネルギーを使わない、当たり前前の技術で実現できることも考えていきます。(千葉氏)

今はたくさんの環境技術があります。少し前だと太陽光を使うことも、そう簡単ではなかったのに、今ではごく普通にできるようになっています。その意味で、7年後にこの庁舎ができる頃までには、さらに新しい技術も出てくるはず。そういうことは積極的に考えていかなければいけないと思いますが、一方で環境は、ある意味非常にプリミティブなことだとも思います。なるべく余計なエネルギーを使わない、それは当たり前前の技術で実現できることでもある。例えば、高層化していつもエレベーターを使わないと移動できないという働き方を強くないということも、もしかしたら大事な環境技術かもしれない。あるいは普通に窓が開く、ということもそうです。特に東日本大震災以降、窓が開かない建物がどれだけ使えなかったかということは大きな教訓の一つだと思います。ちゃんと窓が開く、そういう当たり前前のごことを着実にやる必要があるでしょう。



環境配慮のあり方について話す千葉氏

環境に対して率先して取り組むことが市役所の責務であり、自然との共生を一人一人の市民が気づけるきっかけにしたいです。(高野市長)

環境については、これから庁舎を考えるときに非常に大きな課題です。率先して取り組んでいかなければいけないというのが市役所の責務であるはずだと考えています。例えば、エネルギーなどの太陽光を利用するなど、ベストミックスのエネルギーが提供できるような庁舎でありたいと思っています。ただ、そればかりではなく、自然との共生を一人ひとりの市民がいかにつづき、それぞれの生活において、自然に対する負荷がないような取組をしていく、そういうことも千葉氏から話をいただいて大変ありがたいと思っています。

環境に対して率先して取り組むことが市役所の責務であり、自然との共生を一人一人の市民が気づけるきっかけにしたいです。(高野市長)

今回のシンポジウムは設計者の基調講演後、パネルディスカッションを行う2部構成で開催し、来場者の皆さんから、意見・質問票を使用して意見や質問を受付けました。時間に限りがあったため、パネルディスカッション中に全ての意見を取り扱うことができませんでしたので、当日いただいたご意見は市の考え方と併せて市ホームページに掲載していますので、ご覧ください。



当日の会場の様子

また、当日は240人の方にお越しいただきました。いただいたご意見は、現在進めている設計の参考とさせていただきます。

今後に向けた展望

府中が第二の故郷になるくらい愛着を持ち、建物完成後の使われ方にも関わっていきたいと思っています。(千葉氏)

建築の案というのは基本的には皆で育てていくものだと思います。今後7年間、自分自身も府中の魅力をもっともっと発見し、時間をかけてまずは案を育てていくということをきちんとやりたいと思います。また、通常建築の設計では建物が出来上がるまでが仕事になりますが、自分自身は建物がその後どう使われていくのかについてもいつも大変気にかけています。建物はやはりたくさんの人に積極的に使われて、使い倒されるくらいが幸せなことだと思っています。そのために僕自身は、イベントの企画に関わったりして、その建物をどう使っていったら良いかを一緒になって考えることをやっています。おそらくこれが完成する頃には、府中は自分にとっての第二の故郷になるくらい愛着をもって接することになっていると思うので、その後建物がどう使われていくかについてもなるべく関わっていきたいと思っています。

職員が中心となって、より市民の皆さんのご意見を頂戴する機会を作ることが最も大切な姿勢だと思います。(高野市長)

本日シンポジウムにたくさんの方に来ていただいて、市民の皆さんの関心が非常に高いことを再認識させていただきました。しかしながら、25万7千の市民皆さんに庁舎の建替えについて広く認識をいただいて、新庁舎の設計の固まるまでの期間では、職員が中心となって、より市民の皆さんの身近なところで説明をさせていただきながら、より多くの皆さんのご意見を頂戴する機会を作ることが最も大切な姿勢だと思います。また、財政的な予算面での効率的な工程や工期についてもしっかりと研究をしていかなければならないと思いますので、設計者の知恵を最大限いただきたいと思ひますし、市民の皆さんとの議論の場も、議会が中心となるかもしれませんが、必要だと思っています。非常に良い提案をいただいた、素晴らしい設計者の皆さんだと思っていますので、期待をしていきたいと思っています。

人が集まっていく場所として、府中市の未来を担う新庁舎ができていくことを願ってやみません。(田中氏)

今日こういう場で、選ばれた設計者の2人には案を紹介いただいて、色々議論を深めることができましたので、府中市に相応しい、府中市ならではの庁舎のあり方に対して、色々ヒントを得られ、理解を深めることができたと思います。また、対話による設計の姿勢を示していただいたので、今後ある意味7年間のお付き合いが今日から始まるということで、7年のプロセスを経て、人が集まっていく場所として、府中市の未来を担う、未来をつくる場所として府中市の新庁舎ができていくことを願ってやみません。

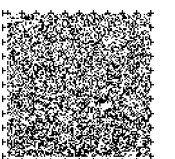


ファシリテーターの田中氏

当日いただいたご意見やご質問の紹介

◆ いただいたご意見の紹介(一部) ◆

- 文化やスポーツの面でも自慢したくなるようなアイデアも期待します。
- 高層でないのが大変良い。
- 建設工事費が膨らむのではないかと。
- ロングスパンにする必要なし。適度に柱を入れた経済設計とすべき。
- 将来を担う若者たちが集う「はなれ」でありますように、魅力的な街がもっと素敵になってほしいと思います。
- 空調機能については十分な検討をしていただきたい。竣工後に残念な箇所がないようにお願いします。
- 外部空間がとても良い空間なので各種イベントの企画を充実させてください。



新庁舎建設に懸ける

市では、平成27年7月に府中市新庁舎建設設計者選定委員会が最優秀者として選出した「千葉学建築計画事務所・久米設計 設計共同体」を新庁舎の設計者として決定し、10月11日にルミエール府中で開催した新庁舎建設シンポジウムを開催しました。

今号では、当日のパネルディスカッションにおける、設計者の「千葉学建築計画事務所・久米設計 設計共同体」の上田克行氏と千葉 学氏、選定委員会委員長の倉田直道氏、高野市長の新庁舎建設に懸ける想いについて、その主な内容をお伝えします。

設計者選定に当たってのポイント

市民協働の場、市民に開かれた庁舎というものをどういう風に受け止めて形にしたかがポイントでした。(倉田氏)

設計者選定において庁舎には非常に幅広く条件を求めました。まず、職員にとって働きやすい執務環境や、利用する市民にとっても行き届いた行政サービスの提供の場、その次に、市民に開かれた、市民に親しまれる庁舎ということがありました。同時に、防災や市民との協働の場としての庁舎と、大國魂神社に隣接する現庁舎の建替えが非常に大きいテーマだったと考えています。いろいろ議論がありましたが、市民協働の場の庁舎、市民に開かれた庁舎というものをどういう風に受け止めて形にしたかということが最終的なポイントでした。もう一つは、立地環境をどのように生かして府中らしい庁舎を提案しているかということが大きなポイントだったと考えています。



評価のポイントを話す倉田氏

設計のコンセプト

府中の地域の魅力を引き出す、市民活動の背景となる庁舎になれば良いと考えました。(千葉氏)

建築の役割は、その建物自体のデザインが素晴らしいということ以上に、その建物ができることによって、どれだけその地域の魅力を引き出すことができるかにあると思っています。今回の提案には、「おもや」と「はなれ」、「通り庭」という大切な要素がありますが、これができることによって、府中本町駅から大國魂神社を抜けて府中駅に至るという経路は、もっと魅力的な場になると考えています。もちろん今現在も豊かな自然に包まれた、十分に魅力的な場所ですが、それがこの建築によってさらに引き立つのではないかと考えたのです。

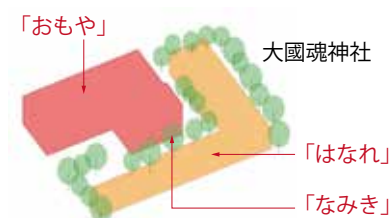
もう一つ、何度か府中を訪れる中で印象深かったことは、確か週末でしたが、市民の方々が公園をはじめとする様々な公共空間を実にうまく使っていることでした。特に子どもたちが遊んでいる姿は、大変生き生きとしていて素晴らしいものでした。そこが府中の最大の魅力でもある。その意味で、この建築が、こうした市民活動の背景になれば良いのではないかと考えました。

提案の概要

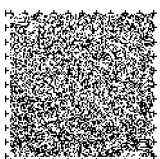
主たる庁舎機能を集約した「おもや」、庁舎機能を補完し市民活動を支える「はなれ」、けやき並木を延長する「なみき」で構成されています。

新庁舎には「通り庭」と呼ばれる誰もが自由に使える外部空間があり、様々な市民活動スペースやラウンジが重なり合いテラスや軒下空間をつくります。店先で休憩したり隣人と会話を交わしたり、雨宿りをしたりと、かつての府中宿をほうふつとさせる空間は、現代の宿場町をコンセプトとしています。

■新庁舎の構成



府中街道から通り庭を見たイメージ



災害時の考え方

免震構造を採用することで、二次的な災害を防ぎながら、指令場所として機能させることを考えています。(上田氏)

災害時に庁舎はどういった役割を担っていくのかについて考え、提案させていただきました。1つは、庁舎は安全安心のシンボルとなるように災害時の災害対策本部として司令塔になることが必要だと思っています。2つ目は災害の支援機能ということで、ボランティアの受付だったり、復興の相談窓口だったりなどがあります。3つ目として、日常の市役所機能を止めてはいけないということで、継続できることが必要だと思っていて、これら3つの機能を備える必要があると考えています。

今後、地震の発生確率が非常に高いと思っていますので、この庁舎が防災拠点となるには現在信頼度が高い免震構造を採用することを提案しています。免震構造は地震の揺れを低減できるほか、東日本大震災でもあったように天井からの落下物をなくすなど二次的な災害を防ぎながら、指令する場所として機能していくことを考えたいと思います。防災専用のスペースを設けることは面積の規模なども考えると難しいということがありますので、日常使っているスペースを災害時にきちっと転換できる造りをして有効に使っていくことが必要だと思っています。それを維持していく、使い続けていくためにはエネルギーの問題も含めて自然エネルギーを有効に活用することにも繋がり、防災時に使える庁舎は、エコな庁舎であると考えています。

首長の災害時の初動、リーダーシップがなによりも強く求められていることが非常に大きな責務だと考えています。(高野市長)

今後、大地震が発生する可能性が高く、自然災害の発生をいつも念頭において仕事を進めていかなければいけないと思っていますし、首長の災害時の初動、そしてリーダーシップがなによりも強く求められていることが私にとって非常に大きな責務だと考えています。一方で庁舎を考えるときに、まずは、大地震を想定しなければならない、その際に市役所のなかにいる市民や職員を守ることがなによりの課題であり、免震構造やエネルギーの供給のあり方、あるいは建物の高さを抑えたことによる利点については、ぜひ実際の基本設計でも取り入れていただきたいです。また、復興の拠点として、継続して事業を止めることなく進めていくことも想定したエネルギーのあり方などについてもしっかりと今後議論を重ねていきたいと思っています。



災害への備えについて話す高野市長

登壇者のプロフィール

- 田中友章氏(ファシリテーター)
明治大学教授/市の土地利用景観調整審査会委員などを務める
- 上田克行氏(久米設計)
設計の総括責任者/過去に茨城県坂東市庁舎などを設計
- 千葉 学氏(千葉学建築計画事務所/東京大学大学院)
設計の意匠担当責任者/過去に千葉県大多喜町役場などを設計
- 倉田直道氏(選定委員会委員長)
工学院大学名誉教授/平成23年に策定した基本構想の計画段階から本市の新庁舎建設事業に携わる
- 高野律雄(府中市長)
平成11年より市議会議員を3期務め、市議会議長等を歴任。平成24年より現職(現在2期目)

執務室内のレイアウト方針

新庁舎の設計作業においては、各課の配置を検討することとしていますが、執務室内のレイアウトについては、右記のレイアウトをスタンダードとして使用し、それぞれの執務室のレイアウトを決めていく予定です。

このスタンダードでは、執務机、キャビネット、OA機器などはそれぞれ機能別に集約して、無駄な面積を減らすことが可能となります。

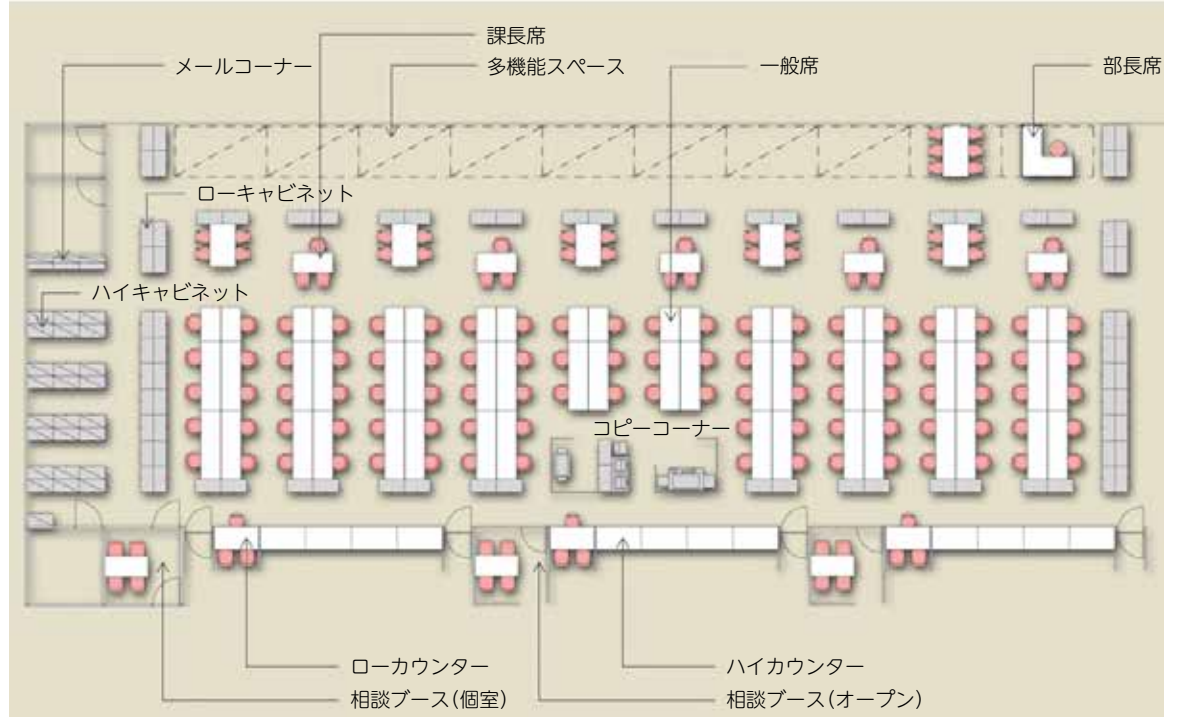
また、各課共通のスタンダードを用いることにより、組織変更や職員数の増減、新たな課題への対応など、将来の変化にも柔軟に対応でき、執務室を効率良く整えることで、市民サービスの向上にも繋がります。



執務室の事例(茅ヶ崎市)

窓口カウンターについては、各課の来庁者の特性を考慮して、課ごとにハイカウンターやローカウンター、相談ブースなど、利用しやすいしつらえとなるよう検討していきます。

◆執務室のスタンダードレイアウト◆



今後の予定

現在取組んでいる設計や、建設工事及び解体工事については、右記のスケジュールで行う予定です。

工事は、平成30年度から着工し、平成33年度末までに完成する予定ですが、1期工事で建設される「おもや」については、完成次第、供用開始とする予定です。

なお、設計を進めるなかでスケジュールは変更となる可能性があります。

◆今後のスケジュール◆

年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度	平成34年度
工程		埋蔵文化財調査						
	基本設計	実施設計	施工者選定	1期工事・既存庁舎解体・2期工事				外構工事

これまでいただいた主なご意見

市では、広報ふちゅう新庁舎特別号や庁舎建設ふちゅうかわら版などを通して、随時市民の皆さんのご意見をいただいています。また、シンポジウムや新庁舎建設キャラバン隊においても多くのご意見をいただきました。

これまでのご意見のなかで、多くいただいたものについてご紹介します。

- Q 新庁舎はどこに建設されるのか。
- A 来庁する方の利便性や新たな敷地購入の費用面等を考慮し、現在地に新庁舎を建設します。
- Q 新庁舎はどれくらいの高さになるのか。
- A 現段階では確定していませんが、現在進めている設計の基となるプロポーザル時の案では、4～6階となっています。新庁舎の敷地周辺には大國魂神社や住宅もあるため、周辺環境に配慮した計画とします。
- Q 障害者に配慮した建物にしてほしい。
- A ユニバーサルデザインの考え方にに基づき、障害者はもちろん、高齢者やあらゆる世代にとって不自由なく使用できる庁舎を実現するため、庁内の関係部署や関係団体からも意見を聴取しながら設計を進めます。

新庁舎建設キャラバン隊の報告

新庁舎建設の設計者が決まったことに伴い、平成27年8月から11月にかけて、市職員が市内で開催されたイベントにブースを出展し、新庁舎建設の必要性や設計者の提案内容などについて周知を行いました。



キャラバン隊の様子

述べ1,700人を超える方々と対話を行い、いただいた多くのご意見を設計に反映していきます。

ご意見をお寄せください

現在行っている基本設計では、新庁舎の具体的な機能や構造について検討しています。

新庁舎に必要なと考える機能などについて、ご意見を募集します。いただいたご意見に対して個別に回答はしませんが、今後設計を進めるなかで参考にさせていただきます。

提出方法

住所・氏名・意見を記入し、郵送、FAX、Eメール、持参などでご提出ください。

提出・問合せ先

〒183-8703 府中市宮西町2の24
 府中市役所政策総務部政策課庁舎建設担当
 電話(335・4129) FAX(366・7752)
 Eメール(chousya01@city.fuchu.tokyo.jp)

